

## 研究会・シンポジウム報告

2019年7月10日（水） 定例研究会報告

テーマ： 制度派進化経済学（レギュラシオン・アプローチ）と  
市民社会認識はいかにつながるか？：理論的検討と政策構築

報告者： 植村博恭氏（横浜国立大学経済学部教授）

時間： 15:00～17:45

場所： 専修大学サテライトキャンパス・スタジオB

参加者数： 7名

報告内容概略：2018年7月に藤原書店から『市民社会と民主主義—レギュラシオン・アプローチから』が出版された。今回はその著者の一人である植村博恭氏をお招きして、本書の概要を特に参加者の顔ぶれも意識していただきながら報告していただいた。論点は次の通りであった。制度派進化経済学（レギュラシオン・アプローチ）と市民社会論がいかなる関係にあるか、市民社会概念をどのように豊富化していくか、戦後日本の進歩的経済学の継承、市民社会民主主義の制度派経済学に向けて、本書で書けなかったことである。

本報告の意図は、資本主義と民主主義の関係について、戦後日本の思想的原点である市民社会論に今一度立ちもどり、それをレギュラシオン理論と結びつけることで資本主義の民主化と民主主義の再生を展望することにあつたと思われる。報告者からは市民社会論の「現代化」による資本主義の民主化と民主主義再生の方向性が提案された。それは市民による社会認識の重要性を強調することによって、市民からレギュラシオンを介して政策を形成するというアプローチである。予定していた時間を超過して活発な質疑応答、討論がなされた。

記：専修大学経済学部・松井暁